

ヒメウラナミジャノメは北海道から種子島まで広く分布し、幼虫がシバムギ、カモジグサ、チガヤなどのイネ科植物で生育するきわめてありふれた普通種です。食草があたりにも生える雑草なので近隣にいてもおかしくありませんが松波町周辺では見たことがありません。5-6月にちょっと山地環境にでかければ必ずみることができ、林縁の草地や道路上をヒョイヒョイという感じで飛びます。タンポポやノバラなどの花の蜜を求める光景も普通に見られ、蜜を吸って

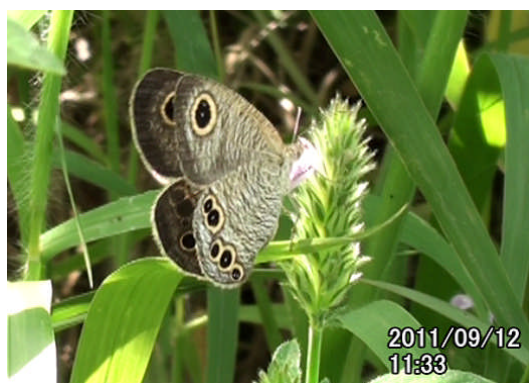


いる最中とか、普通に葉っぱ上にとまっているときにも、数秒間隔ではねを閉じたり開いたりして眼状紋を間歇的に見せる独特の動作をしますが、前に紹介したヒメジャノメなど

ジャノメチョウ属に多くみられる、鳥などの外敵を一瞬驚かすためとも考えられるしぐさです。はねの表裏ともに眼状紋が多く、学名：*Ypthima argus* の *argus* はギリシャ神話にでてくる、ゼウス (Zeus) の妻ヘラ (Hera) に命じられてイオ (Io) を見張った百眼の巨人 Argus (アーガス) に由来する命名で、誰が見てもこの複数の目玉模様が印象に残るチョウです。写真に示したように、♀の前翅眼状紋のまわりにはうっすらとグラデーションがかかって、新鮮個体ではとても味わい深くきれいです。

加古川にはヒメウラナミジャノメによく似た少し大型のウラナミジャノメという絶滅危惧Ⅱ類選定の珍しいチョウがいます。ウラナミは文字通り羽の裏に波状模様があるからで、沖縄から八重山諸島にかけて近縁種がリュウキュウウラナミジャノメ、マサキウラナミジャノメ、ヤエヤマウラナミジャノメ (決して早口言葉ではありません!) と3種います。ヒメウラナミジャノメはウラナミジャノメよりやや小型なのでヒメ (姫) がつくのですが、すでに紹介したアカタテハとヒメアカタテハの関係と同じです。

ウラナミジャノメは後翅裏の目玉模様の数が通常3個、ときには写真のように4個になる場合もありますが、ヒメウラナミジャノメより少なく、その紋の大きさや並び方に明らかな違いがあるので種の判別は容易です。また、両者の発生の時期がわずかに異なり、



ウラナミジャノメが発生する6月半ばにはヒメウラナミジャノメの多くが飛び古した汚損個体となります。ヒメウラナミジャノメの後翅裏面眼状紋の数は通常の5個から6,7個までとか、♀の後翅表の紋が通常2個なのに5,6個になるものも見られるらしく、普通種だといって見過ごすことなく、変異個体を探してみるという楽しみ方もあります。